

令和5年 12月 12日 14時	
資料提供	
担当課	和歌山県立博物館 学芸課
担当者	学芸員 前田正明
電話番号	073-436-8684

紀伊国は徳川氏の領地ではなかった

企画展「高野山寺領の村」の開催について

天正13年(1585)、羽柴(豊臣)秀吉の紀州攻めによって、根来寺・粉河寺、太田城(雑賀衆)が攻め落とされるなか、高野山は木食^{もくじき}応^{おう}其^ご(1536~1608)の仲介で降伏し、焼き討ちを免れました。天正19年、検地が完了し、高野山の麓(伊都郡・那賀郡の紀の川以南の、中世以来の高野山の領地)は、高野山寺領として認められました。元和5年(1619)、徳川^{とくがわ}頼^{より}宣^{のぶ}が紀伊藩主となり、紀伊国の大部分は紀伊徳川氏の領地(紀伊藩領)となりますが、それに含まれなかった高野山寺領は明治2年(1869)まで存続しました。この企画展では、高野山寺領ゆかりの木食^{もくじき}応^{おう}其^ごや寺領の村々で花開いた芸能や人々の暮らしを紹介します。

会期 令和5(2023)年12月16日(土)~2月12日(月・祝) 展示日数46日

会場 和歌山県立博物館 企画展示室

開館時間 9時30分~17時(入館は16時30分まで)

入館料 一般280円(230円)、大学生170円(140円)

()内は20人以上の団体料金

高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、

県内に在学中の外国人留学生は無料

毎月第1日曜日は無料(会期中では、1月7日・2月4日)

休館日 毎週月曜日 年末年始(12月29日[金]~1月3日[水])

(ただし、1月8日(月・祝)と2月12日(月・祝)は開館、1月9日(火)は休館)

【展示構成】 I 高野山寺領の概観 II 寺領の成立と木食^{もくじき}応^{おう}其^ご

III 高野山上・山麓の賑わい IV 紀伊藩領との境界付近

展示資料総数 54件70点

(うち重要文化財2件、重要文化財(附)1件、和歌山県指定文化財6件、橋本市指定文化財1件、九度山町指定文化財3件)

関連企画(詳細はチラシをご覧ください)

ミュージアム・トーク(展示解説) 各回 13時30分~14時30分 企画展示室

12月16日(土)、24日(日)、1月6日(土)、14日(日)、20日(土)、28日(日)、

2月3日(土)、12日(月・祝)

入館の手続きをお済ませのうえ、企画展示室にお集まりください(事前申し込み不要)。

[添付資料]展示のみどころ、チラシ、出陳資料目録

画像データは、下記のアドレスにご連絡いただければ送付いたします。

admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp(博物館メールアドレス)

担当者 県立博物館学芸課 学芸員 前田正明

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14

(TEL 073-436-8684 FAX 073-436-6643)

【企画展 高野山寺領の村 展示のみどころ】

- ① 紀州には、紀伊徳川家の領地(紀伊藩領)とは別に、高野山の領地(高野山寺領)もありました。



きいのくにえず
紀伊国絵図(資料番号1) 和歌山県立博物館蔵
紙本著色 縦113.5cm 横123.9cm 江戸時代(18世紀)

江戸幕府が制作させた紀伊国絵図の縮図。海岸線の形状から、元禄国絵図がもとになったとみられる。左の写真は紀伊国絵図の部分(伊都郡・那賀郡)で、真ん中を紀の川が東西に流れている。紀伊藩領の村は村名を短冊形で囲み、高野山寺領の村は村名の上に●印をつけ区別し、郡ごとに色分けする。近世の高野山寺領は、大まかにいえば、伊都郡・那賀郡の紀の川以南、貴志川以東にあたり、明治2年(1869)まで存続した。この国絵図は、10代藩主徳川治宝の近臣であつた鳥居興範が、国学所に献上したものである。画像は部分。

- ② 羽柴(豊臣)秀吉の紀州攻めから高野山を救い、高野山寺領の成立に深く関わった僧侶です。



もくじきおうごぞう
木食 応其像(資料番号5) 応其寺蔵 橋本市指定文化財
絹本著色 縦95.0cm 横41.6cm 江戸時代(17世紀)

木食 応其(1536~1608)の肖像。頭に帽子をつけ、直綴、袈裟を身にまとい、両手は胸前で外縛印を結び、袖に入れない。数珠を左手に掛け、床座に座る。賛には高野山上の大塔や金堂を建立したこと、秀吉(太閤)の高野参詣の折に橋本の地に橋を架けたことなど、応其の事績が記され、橋本とのかかわりも強調されている。寺伝では寛永年間(1624~1644)に高野山桜池院の住僧 応円が描いたとする。応其寺には、天和3年(1683)銘のある木食 応其坐像(木造)も残されている。画像は部分。

- ③ 高野山麓の文化水準の高さを知ることができる貴重な資料です。



もえぎじからはな おながどりもんようぬいかりぎぬ
萌葱地唐花尾長鳥文様繡狩衣(資料番号22)
古沢巖島神社蔵 重要文化財
絹・刺繡 身丈137.5cm 裾83.0cm 桃山~江戸時代(16~17世紀)

唐花と尾長鳥の大ぶりな文様を刺繡であらわした華麗な狩衣で、柔らかな刺繡の質感や、裂の裏に糸を回さない「渡し縫」という技法、さらには文様の中で突然色を変える大胆な「色替わり」とおおらかな文様表現が、桃山時代の刺繡の特徴をよく示している。慶長15年(1610)の古佐布色衆之道具の日記に本品とみられる記載(「シテカリキヌ 一ツ」)があり、制作時期の下限が押さえられる点でも貴重である。(展示は1月14日まで)